

目次

この本を読む人のために

第一部 口語編

第一章 動詞

一 口語の動詞とは、どんな言葉か……………二七

注意(一)―活用ノ有無・こないトきない・体言……………二八

練習問題(一)……………三〇

注意(二)―附属語・助動詞・助詞……………三一

二 動詞の活用のしかた……………三二

三 動詞の活用の種類……………三三

四 動詞の活用形の名称……………三三

注意(三)―活用ノ種類ト活用形ノ種類・かみしる袷一枚傘かさ五本……………三三

五 動詞の活用形の見つけかた……………三四

注意(四)―命令形ノ作り方・受ける↓受けよ↓受けい↓受けなさい↓受けたまえ……………三五

練習問題(二)……………三六

六 動詞の活用の種類の見わけかた……………二六

注 意(五)―活用形ト、活用語尾……………二七

注 意(六)―語幹ト語尾ノ分ケカタ……………二八

練習問題(三)……………二九

七 活用の「行」を誤りやすい動詞(上一段・下一段)……………三〇

練習問題(四)……………三一

八 語幹と語尾の区別のつかない動詞……………三二

注 意(七)―見る、得る、射るノ語幹……………三三

九 特別の活用をする動詞……………三四

1 五段活用……………三五

注 意(八)―あるノ未然形・あらぬうわさ……………三六

練習問題(五)……………三七

2 ア・ワ行五段活用……………三八

注 意(九)―活用ガ二行ニマタガル動詞・発音ト表記ガ一致シナイ動詞(言う)……………三九

練習問題(六)……………四〇

一〇 カ行変格活用(カ変)……………四一

一一 サ行変格活用(サ変)……………四二

次

一一 「する」以外のサ変の動詞……………四三

一二 活用の種類が二つある動詞……………四四

1 サ変と五段……………四五

注 意(一〇)―愛しない↓愛さない・害す↓害する・論がない↓論じない……………四六

2 サ変と上一段……………四七

注 意(一一)―重んばれる↓重んじられる・甘んじる・甘んずる・罰しる↓罰する……………四八

一四 動詞の活用形の見わけかた……………四九

注 意(一二)―活用形ノ判別法ト、特別ノ用言、助動詞……………五〇

一五 動詞の音便形……………五一

1 イ音便形……………五二

2 撥音便形(ハネ音便)……………五三

3 促音便形(ツメ音便)……………五四

注 意(一三)―音便ト、動詞ノ活用ノ「行」……………五五

練習問題(七)……………五六

一六 活用の種類を誤りやすい動詞……………五七

1 可能動詞……………五八

注 意(一四)―可能動詞ト可能助動詞(登れる↓登られる)……………五九

目

次

2	自動詞と他動詞	七
3	複合動詞	六
	注 意(一)五―複合動詞ノ種類・近づく・遠のく・勉強する	六
一七	どこまでが動詞かを見わかる法	七〇
一八	動詞の命令形の作りかた	七〇
1	五段活用の命令形の作りかた	七〇
	注 意(二)五―急げよ、行けよノよ	七〇
2	五段以外の命令形の作りかた	七二
	注 意(二)七―ろノツク命令形・いノツク命令形・しろトせい・くれトくれる	七二
一九	口語動詞の練習	七三

第二章 形容詞

一	口語の形容詞とは、どんな言葉か	七五
	練習問題(一)	七五
二	形容詞の活用のしかた	七五
1	ク活型	七五
	練習問題(二)	七五

2	カク活型	七七
	注 意(一)一―カク活ノ語原・きれいだだったときれいかった	七七
三	形容詞の活用形の見わけかた	七九
	練習問題(三)	八二
四	形容詞の音便形	八二
	注 意(二)一―拗音・直音・ありがとうあります・うれしゅうあります	八三
五	誤りやすい形容詞	八四
1	複合形容詞	八四
2	接頭語のついた形容詞	八五
3	その他の	八五
	注 意(三)〇―ない(形容詞・助動詞)ノ判別法・ないトぬノ入レカエ	八六
	練習問題(四)	八九
六	口語形容詞の練習	九一

第三章 形容動詞

一	口語の形容動詞とは、どんな言葉か	九三
	注 意(二)一―名詞ノ判別法・静かト静かさ・静かのト静かな	九三

注意(三)―名詞ト形容動詞語幹……………	九六
二 形容動詞の活用のかた……………	九七
三 形容動詞の活用形の見わけかた……………	九八
四 誤りやすい形容動詞の見わけかた……………	九九
練習問題(二)……………	九九
五 特別の活用をする形容動詞……………	一〇〇
注意(三)―こんな、あんなノ品詞・形容動詞語幹ト連体詞……………	一〇〇
六 副詞か形容動詞か、まちがえやすい例……………	一〇〇
七 形容動詞の語幹の用法……………	一〇一
注意(三)―感動詞ト形容動詞語幹(まアきれい)……………	一〇一
八 接頭語のついた形容動詞……………	一〇三
九 終止形の語尾が「です」となる形容動詞……………	一〇三
一〇 形容動詞の整理……………	一〇四
一一 口語形容動詞の練習……………	一〇六

第二部 文語編

第一章 動詞

一 文語の動詞とは、どんな言葉か……………	一〇六
二 動詞の活用の種類……………	一〇九
三 動詞の活用形の名称と、その求めかた……………	一一一
注意(三)―已然形ト已然形・已、已、已ノチガイ……………	一一三
四 下一段活用……………	一一三
注意(三)―蹴るノ活用・蹴り倒すと蹴倒す……………	一一四
五 下二段活用……………	一一五
注意(七)―口語動詞ト文語動詞トノ関係・ふるえるノ文語・文語ノ未然ト連用・ 口語助動詞ノ利用……………	一一七

注意(二)―語幹ト語尾ノ区別ノツカナイ動詞……………	一二九
練習問題(三)……………	一三三
練習問題(四)……………	一三五
練習問題(五)……………	一三五
注意(九)―文語ト可能動詞・かなづかいト活用ノ行・「中等文法」ト正誤問題……………	一三五
六 上一段活用……………	一二七
注意(三)―射るト煎る・射るト蹴る……………	一二八
注意(三)―かへりみるトこころみる・用ゐるト率ゐる・用ゐるト用ひ・上一段ノ語例……………	一三〇

七 上二段活用

注意(三三)―閉じるト閉ちる(口語ト文語ノかなづかい)……………三三

注意(三三)―夕行ヲ書クトキノ注意……………三三

練習問題(二六)……………三三

練習問題(二七)……………三三

練習問題(二八)……………三七

注意(三四)―口語ノ上一段ガ、文語ノ四段トナル動詞・借ったト買った……………三六

八 四段活用

四段活用……………三六

九 四段活用の見わけかた……………四〇

一〇 誤りやすい四段動詞……………四一

注意(三五)―口語ア・ワ行五段ト、文語ハ行四段(争う↓争ふ)……………四三

注意(三六)―口語ト文語ノ語尾ノチガイ・口語トナ変、ラ変・蹴るノ「行」ト……………四三

「段」・愛すトサ変・恨むノ活用……………四三

練習問題(二九)……………四三

一一 力行変格活用(カ変)……………四四

注意(三七)―こよトこ・文語動詞ノ活用形ノ求メカタ……………四四

一二 サ行変格活用(サ変)……………四四

目次

一三 ナ行変格活用(ナ変)……………四四

注意(三九)―上一段トサ変・活用形ガ皆チガウ動詞・サ変複合動詞・ストナす……………四四

一四 ラ行変格活用(ラ変)……………四五

注意(四〇)―ラ変ト終止形ノ語尾・ラ変ノ語例・ラ変ト四段・傘かささして奈良見物……………四五

一五 動詞の音便形……………四五

一六 自動詞と他動詞……………四五

注意(四二)―自動詞、他動詞ト西洋文典・自他ノ區別ノ困難性……………四五

一七 係り結びの法則……………四五

注意(四三)―「ぞ・なん・や・か・こそ」ノ結び・已然形ト命令形……………五〇

一八 活用形の見わけかた……………五〇

未然形と連用形の見わけかた……………五〇

注意(四四)―告げばや↓来こばや↓行かばや……………六一

連用形と終止形の見わけかた……………六一

終止形と連体形の見わけかた……………六一

注意(四五)―終止形ニツク助動詞・助動詞ノ活用形ト接続……………六一

已然形と命令形の見わけかた……………六一

目次

次

注 意 (四三) — 完了助動詞「り」ノ接続・咲ける・花・泳げる時……………	一三
注 意 (四四) — 接続助詞「ば」・行かば↓行けば・有らば↓有れば……………	一四
一九 文語動詞の練習……………	一五

第二章 形容詞

一 文語の形容詞とは、どんな言葉か……………	一六
注 意 (四七) — 口語ノ「ない」ト文語ノ「なし」ノチガイ……………	一六
二 形容詞の種類……………	一六
1 ク活用……………	一六
2 シク活用……………	一六
3 カリ活用……………	一六
注 意 (四八) — ク活、シク活ノ語幹トカリ活ノ語幹・カリ活ノ終止形……………	一七
三 口語形容詞を、文語形容詞になおす法……………	一七
四 形容詞の活用のしかた……………	一七
1 ク活用……………	一七
2 シク活用……………	一七
注 意 (四九) — 形容詞ノ命令形……………	一七

目 次

注 意 (五〇) — 形容詞ノ語尾・シク活ノ語幹ノ問題……………	一七
3 カリ活用……………	一七
注 意 (五一) — カリ活ノ終止形ト已然形……………	一七
注 意 (五二) — 誤リヤスイカリ活形容詞(恋しかり・涼しかり)……………	一七
五 口語で言い切ると、意味の変る形容詞……………	一七
六 口語で言い切れない形容詞……………	一七
七 形容詞の活用形の見わけかた……………	一七
1 ク活用・シク活用……………	一七
注 意 (五三) — 「強くとも」ノ「強く」ノ活用形……………	一八
2 カリ活用……………	一八
八 形容詞の音便形……………	一八
九 形容詞の音便形の見わけかた……………	一八
一〇 係り結びの法則……………	一八
一一 文語形容詞の練習……………	一八

目 次

目 次

第三章 形容動詞

一 文語の形容動詞とは、どんな言葉か……………	一九
-------------------------	----

二	ナリ活用(ナリ活).....	一八
三	口語の形容動詞を、文語になおす法.....	一九
四	ナリ活用の活用のみかた.....	一九
	注 意 (語)―連用形ト副詞形・ナリ活ノ活用形ノ見ワケカタ.....	一九
五	誤りやすい形容動詞.....	二〇
六	口語で言い切れない形容動詞.....	二〇
七	タリ活用(タリ活).....	二〇
八	タリ活用の活用のみかた.....	二〇
	注 意 (語)―タリ活ノ言葉ノ種類・タリ活ノ活用形ノ見ワケカタ.....	二〇
九	係り結びの法則.....	二〇
一〇	文語形容動詞の練習.....	二〇
第三部 練習問題解答編		
一	口語編.....	二〇
二	文語編.....	二〇

(目次終り)

第一部 口語編

第一章 動詞

一、口語の動詞とは、どんな言葉か

口語の動詞とは、

- 1 自立する言葉で、
- 2 活用があり、
- 3 言い切ったときの最後の音をローマ字つづりで書きあらわすと、ローマ字の終りの音がU(ウ)となる言葉である。

動詞のはたらきはまだあるが、以上三つの条件がそなわっている言葉なら、それを動詞とみてまちがいない。そこで、以上三つの条件を、問答式でわかりやすく説明しよう。

問 (一)の、「自立する言葉」とは、どんな言葉か？

答 たといえば「行く」「返す」「見る」「受ける」のように、それだけで自分にも相手にも意味のよくわかる言葉のこと。すなわち「行く」と耳に聞き、目で見ただけで、進むとかあるくと言う意味がピンとあたまにくる。「返す」と言えば、借りた物をもとへもどす意味だとすぐわかる。このような言葉を自立する言葉、すなわち自立語と言う。

じ同方法でみなできるのだから、はじめはめんどうでも、がまんして、みっちり勉強しなければいけない。

三、動詞の活用の種類

動詞は、その言葉の種類・性質にしたがって、つぎの五通りに活用する。

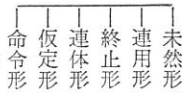
- 一 五段活用―書く・思う・打つ・死ぬ・乗るナド。
- 二 上一段活用―見る・着る・落ちる・過ぎる・恥じるナド。
- 三 下一段活用―受ける・捨てる・流れる・植える・染めるナド。
- 四 カ行変格活用―来る一語ダケデアル。
- 五 サ行変格活用―するト、するガ名詞ヤ、ソノ他ノ語ノ下ニツイタ勉強する・重んずる・欲するナド。

口語のすべての動詞はこの五つのどれかにはいる。それゆえ、ある動詞に出あったら、いつもその動詞が右の五つの活用の種類のどれにぞくするかを考えなければならぬ。

それで今から、その考えかた、活用の種類の見つけかたを、だれにもわかるように、やさしく、はっきりと説明しよう。その前に、つぎのことをしっかりおぼえておかねばならぬ。

四、動詞の活用形の種類

すべての動詞には、必ずつぎの六つの活用形がある。(タダシ、書ける・登れる・できるナドノ可能動詞ダケハ命令形ガナイ)。



活用形と言うのは、ある言葉が動詞の下につくと、その動詞の語形がいろいろに変化する、その変化した形、すなわち変化形のことである。たとえば「書く」と言う動詞の下に「ない」がつくと、「書くない」が「書かない」と変わるから、「ない」がついたために「書く」の「く」が「か」に変化したことがわかる。ゆえに、「書か」は「書く」の一つの変化形、すなわち活用形である。

又、「書く」の下に「ます」がつくと、「書きます」が「書きます」と変わるから、「書き」は「書く」の一つの変化形、すなわち活用形である。このように、動詞は、その下につく言葉の種類に応じて、いろいろに変化するが、その変化のしかたは、だいたい、上に書いた六通りで、それ以上に変化する動詞(五段トサ変)でも、その変化形すなわち活用形は、この六つのどれかにくまらせてしまうのである。

それゆえ、この六つの活用形の名前は、前の五つの活用の種類の名称と共に、いつでもすらすらと、順序正しく口に出るようにおぼえてしまわねばならぬ。せっかくおぼえても、順序をまちがえて連用形・未然形などと言うようでは、文法はいつになってもわかるものではない。活用形のおぼえかたは、「形」を省いて、未然・連用・終止・連体・假定・命令と数回口ずさめば、しぜん口に出るようになる。

そこで、ある言葉が動詞とわかったら、その動詞は、五つの活用の種類のどれにはいるか、六つの活用形のどれに当るか、すなわち、何活用(五段トカ上一段トカ)の何形(未然形トカ連用形トカ)かと言うことを、すぐに考えてみる習慣をつけねばならぬ。

注意 三